

英語科学学習指導案

日時 平成25年 5月31日(金) 公開授業 I
学級 岩手大学教育学部附属中学校
2年B組 40名
会場 1C2A 教室
授業者 中野 誉史

1 単元名 LESSON 2 “A Calendar of the Earth” (NEW CROWN ENGLISH SERIES 2)

2 単元について

(1) 生徒観

生徒は1年時において、まとまった英文を読み、内容を理解する学習を行ってきた。また、自己紹介や友だち紹介、行事説明やグリーティングカード作り等といった、まとまった英文を書くという活動を行ってきた。しかし、その機会は極めて少なく、本単元のような説明的文章を読んだり、エッセイを書いたりするという活動は初めてである。そのため、まとまった英文の読み方や書き方を与えつつ、絵や音声、導入の工夫による動機付けを大切にしながら、英文に対しての抵抗感をなくし、読むことや書くことの楽しさを感じさせたい。

また、本単元で学習する言語材料にかかわる主な既習事項として、「be 動詞」「現在進行形」が挙げられる。「be 動詞」については、現在形である“is, am, are”について学んできた。レディネステストの結果から見ると、be 動詞の使い分け、疑問文・否定文への書き換えの正答率は高かった。過去形については、一般動詞については昨年度の Lesson 9 及び今年度の Lesson 1 で学習しており、be 動詞の過去形を知りたいという生徒の欲求は高まっている。この意欲を大切に、be 動詞の過去形を使って、これまで出来なかった更に幅広い表現活動に取り組みせたい。「現在進行形」については、本単元でも言語材料の使用場面を適切に指導し、繰り返し活用させることで定着させる必要がある。特に、過去進行形の学習では、現在進行形との比較から生徒がイメージしやすい場面や図を用いて指導にあたりたい。

表現活動としては、昨年度については相手を意識したスピーチや英作文といった活動はあまり行われてこなかった。その結果、ただ単に「英語で話す」「英語で書く」という意識が強く、「相手を意識して話す」「相手を意識して書く」という意識が低いように感じる(表現活動の際に文法が一番大切だと思っている生徒は49% < N : 39 >)。英語はことばであるということを改めて意識させ、「英語を活用して主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成」を図りたい。また、英語を使用する喜びを感じさせるために、ペア活動やグループ活動など協同的な学びを効果的に取り入れ、指導にあたりたい。

(2) 教材観

本単元では、題材内容として「地球の歴史」を取り扱っている。12ヶ月のカレンダーにこれまでの地球の歴史を凝縮してあてはめ説明することにより、動植物や人間の歴史上の位置取りや物事をなぞらえて理解することについて学ぶ。地球の成り立ちについては、生徒にとって興味深いものである(地球の成り立ちに興味がある生徒は67% < N : 39 >)。社会科においては、中学1年の初めに、歴史分野において触れられる。また、理科においては、中学2年の7月頃に「生物の変遷」を扱うため、中学2年の生徒は現段階で未習ということになる。そこで、生徒の興味・関心を引き出しながらも、我々人間は地球の歴史の中のほんの一部であることを感じとらせ、Lesson 3 の“For Our Future”の学習へのステップとしたい。本単元は、それまでに学んだことを統合的に活用する題材として、「自分史エッセイ」を作成しお互いに交流するという内容で構成されている。地球の成り立ちを知ることから、更にこれまでの自分と今の自分を見つめさせ、2学年の年間英作文テーマである“My Dream”へつなげていきたい。

言語材料としては「be 動詞の過去形」「過去進行形」「接続詞 when」を扱う。学校行事「クリーンアップデー」の清掃活動の健と久美の報告を通して、過去の状態や感想を伝えることやその時に行っていた状況を伝える表現を学習する。when については疑問代名詞として1年生で学習しているが、複文を構成する接続詞については初出である。そのため混乱させないように指導する必要がある。接続詞 when, 過去進行形と be 動詞の過去形

を学ぶことで、それらを活用して、過去の出来事を詳しく述べたり、気持ちや感想、説明を付け加えたりすることができるようになり生徒の表現の幅がより広がると考える。それらを何度も組み合わせながら練習させ、最終的には本単元のゴールである「自分史エッセイ」で活用させたい。

(3) 学びの自覚化とのかかわり

本校英語科では「学びの自覚化」において現時点で2つの視点に注目している。その中の一つが「自分の変容の自覚」であり、もう一つが「思考の自覚」である。

本単元では、特に「自分の変容の自覚」を図る指導を行いたいと考える。本校英語科で取り組んでいる活動の一つが、学年ごとに年間を通した英作文テーマを設け、同じ題材で英作文活動を年に数回行うというものである。また、それぞれの単元においては、教科書題材に関連させた表現活動を取り入れている。その中で、年間テーマと単元をどのようにつながりをもたせることができるか考えている。本単元では、過去にあった出来事を英語で表現させることにとどまらず、これまでの自分と今の自分を見つめさせることで感じることを表現させ、2学年の年間英作文テーマである“My Dream”につなげたいと考える。また、それらを効果的に育成する手段の一つとして、生徒同士での学びあいを取り入れながら、「学びの自覚」を促し、コミュニケーション能力を総合的に高めていきたい。以上のことを踏まえて、手立てとして次の二つを掲げる。

- | | |
|------------------|---------------|
| ① 年間及び単元のデザインの工夫 | ② 他者を意識した表現活動 |
|------------------|---------------|

① 年間及び単元のデザインの工夫

「自分の変容の自覚」とは、1単位時間や単元、年間の学習における自分の変化、考えの変化を自覚することで自らの学びを高めることである。その変容がどうして起きたのか、その過程に気づくことでさらに主体的に学習に励むことが期待されると考えた。英語科の教科特性により、生徒は徐々に言語材料が身につくにつれ、スパイラルに学習を積みかさねることで、活用できる英語も増えてくる。そのため、年間や単元を見通して計画的にフィードバックを取り入れ、「学びの自覚化」に迫りたい。そのため、単元のデザイン、ゴールの表現活動を生徒と共有したいと考える。また、英語を通して表現したものや他者とのコミュニケーションの中で、自分の課題や変容を感じさせ、自覚させたい。

本単元では、年間英作文テーマへのかかわりとしては、未来を表す表現がまだ使えない段階でもあり「夢」を語るのにはまだ難しい。そこで、そこに至るステップとして、未来を見つめる前に「過去の自分」を見つめる、そして「今の自分」を見つめさせることで、「未来の自分」への想いをもたせながら、未来を表す表現を学ぶ Lesson 3 へと向かわせたいと考える(表1参照)。そこで、「地球の歴史」を読み取らせただの上で、自分自身のこれまでの人生を、学んだ言語材料を活用させながら表現させたい。また、ただ事実を書き連ねるだけのものに終わらせず、それをもとに読み手を意識した「エッセイ」を書くという活動までもっていききたい。

② 他者を意識した表現活動

ことばは相手に何かを伝えるために存在する。そのため、生徒自身がことば本来の意味を自覚することでさらに豊かな表現が可能になると考える。そこで、言語活動を行う際には、「何のための英作文(スピーチ)活動であるか」「読む(聞く)対象は誰なのか」等、ねらいや意図を自覚させながら、コミュニケーションで欠かすことの出来ない「相手」に対する意識を高めさせながら活動に取り組ませたい。

本単元では、USE-Read からカレンダーや時間軸での説明文を読み取り、それを踏まえて自分の過去と現在を英語で表現すること。さらにそれを受けて、小学校と今の自分の変容を英語でエッセイとしてまとめ、交流する。自分の過去を英語で表現させた上で、ただ単にこれまでにあった事実を記すだけのものではなく、読み手に想いを伝えるエッセイとして書くためにはどうしたらいいか、読み手をイメージしながら書くという活動に取り組ませたい。そのためにも、GET の段階から、活用させる英語表現を積み重ねさせ、USE-Read、さらには Mini-project の「自分史エッセイ」へとつなげ、さらには年間英作文テーマ“My Dream”へとつなげたい。

また、相手意識を高める具体的手立てとして、書いた作品や発表についてはシェアリングし、お互いにアドバイスをを行う機会を設けている。シェアリングをすることから、お互いの作品や発表の良さを学び合うことが

できるとともに、「相手に伝える」ために書いたり、発表したりするという意識を高めることができる。その、学びあいに対して、生徒たちは、「お互いの意見や考えを交流しあって、クラスメイトの考えと自分の考えとを比較することで、自分の考えが充実したり、深まったりしていく」「自分の考えを相手に伝える力が高まる」「新しいことばを覚えたり、よりよい表現が見つかったりする」「楽しい」という成果を感じ取っている。

学びあいの中での生徒の育成を目指す中で、最終的な目標は「英語によるコミュニケーションができる」姿がある。だからこそ、学びあいの中で生徒の「学びの自覚」を高めることが、英語力の育成並びに英語によるコミュニケーションを可能にすると考えている。

表1 2学年の年間英作文テーマ“My Dream”の表現活動に至るまでの学習デザイン

総合学習			単元	主な言語材料	主な題材	“My Dream”へのデザイン
4	1 2 3	入学式 対面式	Lesson 1 Aloha!	一般動詞の過去形	ハワイの伝統文化 春休みの思い出(絵日記)	本単元
5	1 2 3 4	縦割り清掃 学生会				
6	1 2 3 4	市中総体	Lesson 3 For Our Future	未来を表す表現 接続詞 that	地球環境の未来 ニュースに挑戦 休日の予定は?	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識 (Writing) 自分自身を見つめる 文章構成 現在時制・過去時制・接続詞 その他、既習表現すべて
7	1 2	校外学習 県中総体	Lesson 4 Enjoy Sushi	There is [are] … 動名詞	日本の各地域の食文化 Enjoy Sushi 何を見て、何を見る? 町の名所を紹介しよう	
8	1		Let's Read 1 A Pot of Poison	読み物(ドラマ)	劇(狂言)を読む	【私の夢①】(Speaking) 将来の夢ややりたいこと
9	1 2 3 4	市内中学校陸上 生徒会役員選挙 新人戦 校内スポーツ大会	Lesson 5 My Dream	不定詞	将来の夢 スピーチを読む スピーチ「私の夢」	
10	1 2 3 4	文化祭	Lesson 6 Uluru	give + A + B lookなど + A	旅と地域の文化 新聞のコラムを読む 空港の対話を聞く 問い合わせの手紙を書く	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識 (Speaking) これからを見つめる スピーチの構成 未来時制・不定詞 その他、既習表現すべて
11	1 2 3	縦割り清掃 県中新人戦	Lesson 7 Good Presentations	比較	様々な視覚的表現 ウェブサイトを読む プレゼンテーションを聞く 人気があるものは何?	
12	1 2 3 4		Lesson 8 India, My Country	受け身形	多言語の国インド スピーチを読む 世界の国を知ろう	【自分史エッセイ②】 これまでの出会い
1	1	本校入試	Let's Read 2 Landmines and Aki Ra	読み物(平和)	物語を読む	<ul style="list-style-type: none"> 相手意識 (Writing) これまでを見つめる 受け身形・give + A + B その他、既習表現すべて
2	1 2 3 4	縦割り清掃 スキーコース				
3	1 2	卒業式 修了式	まとめ My Dream			【私の夢②】 これまでの自分、今の自分、これからの自分を見つめる
						<ul style="list-style-type: none"> 相手意識 (Writing) 既習表現すべて

2学年

【他者から学ぶ】

テーマ

「誠をもって働く」とはどのようなことか

3 単元の指導目標

(1) 指導目標

- ①小学校時代の自分と今の自分の変化を見つめながら、読み手を意識したエッセイを40語程度の英文でまとめることができるようにする。
- ②まとまりのある説明文を読んで、その内容の要点を読み取らせる。
- ③be動詞の過去形、過去進行形、接続詞 when を用いた文の意味・構造を理解させる。

(2) 評価規準

外国語表現の能力	①小学校時代の自分と今の自分の変化を見つめながら、読み手を意識したエッセイを40語程度の英文で書くことができる。
外国語理解の能力	①まとまりのある説明文を読んで、その内容の要点を読み取ることができる。
言語や文化についての知識・理解	①be動詞の過去形を用いた文の意味・構造を理解している。 ②過去進行形を用いた文の意味・構造を理解している。 ③接続詞whenを用いた文の意味・構造を理解している。

4 単元の指導計画および評価計画

時間	主な学習内容と学習活動	評価規準	評価方法
1	○本単元で学ぶ題材や身に付ける文構造を知る。 ・とびらのページを用いて、オーラルイントロダクションを用いながら、生物の誕生・絶滅や、人類の誕生の時期など地球の歴史について述べ合う。 ・本単元で身につける技能や理解する内容を知る。 ○be動詞の過去形を用いた文の意味・構造を理解する。 ・be動詞の過去形を知る。 ・be動詞の過去形を用いた文の構造を理解する。 ・be動詞の過去形を使えるように練習する。	言知①	後日ペーパーテスト
2	○出来事についての感想や様子を問答する。 ・教科書本文を通して、クリーンアップデーに健が感じたことを理解する。 ・教科書本文を音読し、暗唱する。 ・昨年度の学校行事についての感想を尋ねる。 ・昨年度の学校行事について一つ選び、報告文を作成する。		
3 4 5	○過去進行形と接続詞whenを用いた文の意味・構造を理解する。 ・過去進行形を用いた文の構造を理解する。 ・接続詞whenを用いた文の構造を理解する。 ・接続詞whenと過去進行形を用いて、場面・状況を説明する練習を行う。 ・教科書本文を通して、クリーンアップデーに久美が見つけたものと久美の町の昔の様子を理解する。 ・教科書本文を音読し、暗唱する。 ・昨日の夜について、ペアで対話をする。	言知② 言知③	後日ペーパーテスト
6 7	○A calendar of the earthを読んで、地球の歴史についての概要や大切な部分を正確に読み取る。 ・地球の歴史について知っていることを話し合う。 ・新出語句の発音・意味を知る。 ・キーワードを参考に黙読し、関係のある語句にアンダーラインを引きながら大まかな内容を読み取る。 ・本文を精読し、英問の答えを考える。	理①	後日ペーパーテスト

	・展示の解説を読んだ3人の生徒の意見を聞き取り，共感する人を選び，その理由を述べる。		
8	○自分史エッセイ“My Change”を作成する。 ・自分史エッセイを読む。 ・エッセイを読み，エッセイの特徴と最終的な作品のイメージをもつ。	表①	後日作品にて評価
9	・小学校時代の性格についてインタビューし合う。		
10	・自分自身の変化を見つめる。(小学校時代の自分と今の自分の変化)		
11	・変化の根拠となる事柄を，構造マップを作成することで整理する。 ・speaking活動を通して，内容の向上と充実を図る。		
11	・吟味した構造マップをもとにまとめた英文を完成させる。		
本時	・Writing活動を通して，内容の向上と充実を図る。		
12	・自分史エッセイ“My Change”の内容を，「構成」を意識させながら再度書かせ，より読み手を意識したエッセイとして仕上げる。		
13	・英文を清書する。	表①	作品として提出 内容にて評価
14	○文法のまとめを行う。 ・be動詞の過去形，過去進行形，接続詞whenを用いた文の構造を確認する。 ・単元文法テストを行う。	言知① 言知② 言知③	単元ペーパーテスト

5 本時について

(1) 主題 「自分史エッセイ“My Change”を書こう

～小学校時代の自分と今の自分の変化を伝えよう～

(2) 指導目標

小学校の頃の自分と今の自分の変化を見つめながら，読み手を意識した英文を40語程度の英文でまとめることができるようにする。

(3) 本時の評価規準

- ① 本時では，形成的評価はするが総括的評価は行わない。後日作品により評価を行う。
- ② 本時は本単元の11時間目にあたる。本時の指導目標は単元における外国語表現の能力の指導目標と同じである。ただし，本時のみでこの目標を達成するものではない。あくまでも単元の終了時にここまでの力を付けさせたいと考える。そこで，単元終了時の作品の内容により総括的な評価を行う。本時での形成的評価として，外国語表現の能力の段階のとらえは以下の通りと考えている。

外国語表現の能力に関する形成的評価段階のとらえ	
～7時間目	・whenやbe動詞の過去形の学習をふまえ，パターンプラクティス段階の英文を1文から2文程度書いている。
8時間目	・エッセイを読み，エッセイの特徴と最終的な作品のイメージをもつことができる。
9・10時間目	・自分の小学校時代と今の変化について，whenやbe動詞の過去形を適切に使い英文を相手に伝えている。
11(本時)時間目	・クラスメイトの作品やコメント，アドバイスを受けて，より良い英文にするため英文を書いている。
12時間目	・構成を意識したエッセイとして英文を書いている。
13時間目	・自分史エッセイ“My Change”を作品としてまとめ，完成することができる。

(4) 指導の構想

本時は、単元 USE Mini-project から発展させた表現活動の4時間目（単元1 1/1 3時間目）である。

「自分史エッセイ“My Change”」の完成にあたって、読み手を意識したエッセイに改良させたい。コミュニケーションは相手あつてのもので、それはSpeakingにおいてもWritingにおいても変わらないものである。しかし、特にもWritingについては、実際に目の前にあるのは紙であり、相手をイメージして書くということはより意識を高めなければいけないと感じる。よって、本単元の最終表現活動は過去形を用いた活動ではあるが、日記ではなく、想いやメッセージを読み手に伝える「エッセイ」を書くという活動を通して効果的な指導を行い、「読み手意識を高める」機会としたい。なお、今回完成した作品は、自分のことを知らない3年生の先輩に読んでもらおうということで表現活動に取り組んできた。ただ単に過去の事実を書き記すだけではなく、相手に何らかの想いやメッセージを伝えるというモチベーションを高めていきたい。また、2学年の年間英作文テーマ“My Dream”へのつながりを意識した指導を行いたい。

自分史エッセイの作成過程は「学習指導要領の内容（1）言語活動 エ 書くこと（エ）身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。（オ）自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。」にあたる。本時は（エ）に重点を置き指導を行う。クラスメイトとの交流からどうすればよりよくなるのかを見いだし、それをもとに仕上げに向かわせたい。本時の最終的な活動はWritingであるが、生徒にとってまとまった英文を書くことは容易なことではない。そのためそれまでのステップとして思考段階では構造マップを作成させ、それをもとに口頭で相手に伝える活動、相手の英文に触れて自分のものに生かす活動を行わせたい。そして、それをもとにグループで作品交流やコメントを書かせることで学習の幅を広げ、その後「自分史エッセイ“My Change”」の清書につなげたいと考える。また「学びの自覚」へつなげるために、本時の学びを自分自身で捉えさせ、全体でのシェアリングを行い、意見を述べさせたい。

(5) 本時の展開

段階	学習内容及び学習活動	時間	■学びの自覚化との関わり
導入	0. 3分前学習 ・英語の歌 “If We Hold on Together” を歌う。		
	1. Warm-up ・ “Character Map” に取り組む 2. 目標の確認 ・ エッセイとは何か、何のために書いているのかを再確認し、本時の目標を確認する。	5	■本時の活動の目的，課題を捉える。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> <p>「自分史エッセイ “My Change” を書こう ～小学校時代の自分と今の自分の変化を伝えよう～」</p> </div>		
	3. Speaking活動 (1) 個人練習 ・ 小学校時代の自分と今の自分の変化について，自分で作成した構造マップを用いて口頭で伝える練習をする。 (2) ペア活動 ・ 小学校時代の自分と今の自分の変化について，構造マップを用いて口頭で伝え，伝えたいことが伝わったかを互いに確かめ合う。	10	
	4. 構造マップの吟味 ・ 相手に伝えている中で気づいた改善点や相手の発表やコメントを聞いて気づいた改善点等をもとに，必要があれば構造マップに修正を加える。	3	■口頭で伝え合う活動から，改善点を見出す。
	5. Writing 活動 ・ 吟味した構造マップをもとに，自分の変化についての英文を書く。	5	■読み手に「自分の変化」を伝えることを意識しながら英文を書く。
6. シェアリング活動 それぞれの作品を読みあい，読み手としてアドバイスを与えあう。クラスメイトの作品に触れ，よりよくするためのヒントを得る。 (アドバイスの視点) ① 「小学校時代と今の自分の変化」が伝わるか 7. 作品の吟味 自分自身が得た学びから，自分の作品を改良する。	10	■読み手としてクラスメイトの作品に触れ，感じたことを交流し，高めあう。 ■アドバイスを与え合うなかで得られた学びを自分の作品に生かす。	
終結	8. 学びの振り返り 本時を振り返り，「学習チェックシート」に記録する。	5	■本時の学習でわかったことや学んだこと，悩みや疑問を自分自身で捉える。
	9. 次時の学びへの導入 10. あいさつ	4 2	■本時の学びとこれからの学びの繋がりイメージをもつ。